

船舶事故調査報告書

平成25年7月18日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年3月7日 03時15分ごろ
発生場所	和歌山県印南町切目埼北西方沖 印南町所在の印南港東防波堤灯台から真方位130° 1.1海里（M）付近 （概位 北緯33°47.9′ 東経135°13.9′）
事故調査の経過	平成25年3月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第六十一龍丸、499トン 132679、光潮物産株式会社（船舶管理会社） 76.55m×12.00m×7.00m、鋼 ディーゼル機関、1,177kW、平成3年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 三級海技士（航海） 免許年月日 昭和56年6月16日 免状交付年月日 平成20年4月16日 免状有効期間満了日 平成25年11月24日 二等航海士 男性 52歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成3年6月26日 免状交付年月日 平成22年2月9日 免状有効期間満了日 平成27年2月13日
死傷者等	なし
損傷	船首船底部に破口、船首部から船尾部にかけての船底外板に複数の凹損、プロペラ翼の一部折損
事故の経過	本船は、船長ほか5人が乗り組み、平成25年3月6日07時40分ごろ、大分県津久見市津久見港を千葉県館山市館山港に向け、出港した。 船長は、20時35分ごろ、高知県室戸市室戸岬の南方沖約3Mにおいて、針路を真方位055°に定め、対地速力約10ノットとして自動操舵で航行し、23時35分ごろ、徳島県阿南市伊島南方沖約

	<p>16Mにおいて、二等航海士に船橋当直を引き継いだ。</p> <p>二等航海士は、船橋当直前に約2時間の仮眠をとったものの、少し眠気を感じており、操舵装置の後方で椅子に腰を掛けて船橋当直を行い、7日00時20分ごろ、次の変針点まで約2MであることをGPSプロッターで確認した後、居眠りに陥った。</p> <p>本船は、紀伊水道南方の変針予定場所を通過し、印南町西方沖に向けて航行し、03時15分ごろ切目埼北西方沖の岩礁に乗り揚げた。</p> <p>二等航海士は、乗り揚げた衝撃で目が覚め、乗揚の衝撃で昇橋した船長が海上保安庁及び船舶管理会社へ本事故の発生を通報した。</p> <p>本船は、13時13分ごろサルベージによって離礁し、自力航行して和歌山県日高港に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：波高 約0.3m、潮汐 高潮期、潮高 約130cm（田辺）</p>
その他の事項	<p>本船は、石灰石約1,470tを積載し、喫水が船首約3.82m、船尾約4.87mであった。</p> <p>本船には、居眠り防止装置がなかった。</p> <p>本船の航海当直は、0～4時を二等航海士が、4～8時を一等航海士が、8～0時を船長がそれぞれ担当する単独の3直制であった。</p> <p>船橋は、外部へのドアが閉まっており、暖房が効いていた。</p> <p>二等航海士は、眠気を誘うような薬の服用及び飲酒はしていなかった。</p> <p>二等航海士は、出港前の5日22時～6日05時まで、約7時間睡眠をとった。</p> <p>二等航海士は、通常の航海中には、午後の当直終了後、約5～6時間の睡眠をとっていたが、本事故前日は、TVを視聴していたため、2時間しか睡眠をとっていなかった。</p>
分析	<p>乗組員等の関与 あり</p> <p>船体・機関等の関与 なし</p> <p>気象・海象の関与 なし</p> <p>判明した事項の解析</p> <p>本船は、紀伊水道南方沖を自動操舵で北東進中、単独で船橋当直中の二等航海士が居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して切目埼に向けて航行し、切目埼北西方沖の岩礁に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>二等航海士は、眠気を感じた状態で暖房が効いた船橋において、椅子に腰を掛けて船橋当直を続けたことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、紀伊水道南方沖を自動操舵で北東進中、単独で船橋当直中の二等航海士が居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過して切目埼に向けて航行し、切目埼北西方沖の岩礁に乗り揚げ</p>

	たことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>船舶所有者は、同種事故の再発防止のため、本事故の修理工事に合わせ、居眠り防止装置を設置した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当直中に眠気を感じた場合は、椅子に座ることなく、外気に当たるなどして居眠りに陥ることのないように努めるとともに、眠気が取れない場合は、当直を交代するなどの措置を講じること。 ・当直前は、睡眠時間の確保や体調管理を優先すること。